

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
交通中国語		交通に関する中国語コミュニケーションの実践		李 婧	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	中国交通論、中国文化事情、国際観光、観光中国語、ビジネス中国語			
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力(技術・理論)を有し、関連分野で活躍可能な能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力(技術・理論)を身につける					
事前に受講するとよい科目	中国語 A/B、交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門					
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
講義の目的	本講義は、交通に関連する中国語の基本知識とそれにまつわる重要な単語を学び、観光やビジネスで使う場面を想定した、専門的な中国語を習得することを目的とします。特に、中国語圏(中国・台湾・香港、マカオなど)からの観光客が鉄道・バス・飛行機など交通機関を利用する際、コミュニケーションがとれるような実践的な会話能力の習得を目指します。					
到達目標	① 初級から準中級の基本的な文法を身につける。 ② 基本的な中国の観光やビジネスに関する用語を覚える。 ③ 実際に交通機関を利用する場面を想定した会話ができる能力を得る。 ④ 中国語圏の交通機関に関する認識や文化事情を知り、中国語のコミュニケーションをとる際に役に立てるようになる。					
講義内容	中国語の語学能力習得だけでなく、異文化相互理解という視点から日本と中国の交通機関に対する認識の違いや文化的な差異についても紹介します。中国語圏の交通や習慣・文化事情を紹介する画像や映像資料も教材として用い、日本で知られていない側面にも焦点を当てます。学期の中盤からは観光客やビジネス客との応対を想定した実践的な会話練習を行います。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	資料配布や講義の説明			
	第2講	中国の交通事情(1)	中国交通形成史と現状			
	第3講	中国の交通事情(2)	中国交通の習慣と文化			
	第4講	発音の発音と練習	声調やピンインの確認と反復練習			
	第5講	自己紹介の表現	自己紹介文の作成と実践			
	第6講	バス・電車に関する表現	単語調べと意味の確認、配布資料本文の音読・翻訳・実践			
	第7講	空港でのやりとり	関連の文法要点の説明、教科書本文の音読・翻訳・実践			
	第8講	出入国に関する表現	関連の文法要点の説明、教科書本文の音読・翻訳・実践			
	第9講	機内での表現	関連の文法要点の説明、教科書本文の音読・翻訳・実践			
	第10講	宿泊施設での表現	単語調べと意味の確認、関連の文法要点の説明			
	第11講	観光案内に関する表現	関連の文法要点の説明、教科書本文の音読・翻訳・実践			
	第12講	中国鉄道の仕組み	配布資料本文の音読・翻訳・実践			
	第13講	中国鉄道の特徴	配布資料本文の音読・翻訳・実践			
	第14講	交通中国語の実践演習(1)	コミュニケーションの実践			
第15講	交通中国語の実践演習(2)	振り返りとまとめ				
指導方法	講義は教科書と配布資料を主に用いて進めていきます。学期の中盤以降は、実践的な会話練習を中心に進めます。また中国本土で使われている簡体字のみならず、台湾・香港・マカオ・世界各地の中華街で使われている繁体字の資料も適宜取り入れます。					
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	本試験(会話試験):50%、平常点(小テスト・授業内課題・発言):50%として、総合的に評価します。					
テキスト	『チャイニーズ・サバイバル for Biz』(2023) 姫梅著、朝日出版社 (ISBN:978-4-255-45378-1)					
参考書籍	『中国鉄道大全:中国鉄道10万km徹底ガイド』(2011)、阿部真之・岡田健太郎著、旅行人 『KIKUCHU 聴く中国語:列車で中国を旅しよう!中国鉄道大接近!』2023年1月号(253号)愛言社友好書店					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項	受講生の状況や希望によって授業進度などを調整する場合があります。					